

「また行きたい薬局のNo.1へ」 地域の医療機関と連携、 在宅医療のエキスパート

徳永薬局

徳永薬局(稲城市向陽台、徳永愛子社長、042・370・7251、<http://tokunaga-p.jp/>)は、「地域でまた行きたい薬局のNo.1になる」ことを経営理念に掲げ、東京都、神奈川県を中心に41店舗を展開している。

同社の最大の特長は、在宅医療に対する取り組みである。社会の高齢化が進み、医師、看護師、薬剤師が患者の自宅に訪問する在宅医療へのニーズは高まる一方だが、「薬剤師が少ない」、「休日や夜間の対応が難しい」、「無菌設備がない」など課題が多く、積極的に関わっている薬局は少ない。それに対し、同社は平成22年3月に在宅部を新設。多摩地区を中心に在宅医療を手がけるクリニックと連携し、患者の往診時に薬剤師も同行して患者の自宅での状態を把握し服薬指導などを行う。さらに多摩地区や横浜市、相模原市の4カ所に「在宅センター」という在宅医療専門の薬局を展開し、そのうち2カ所には、薬剤師の調合時において微生物混入や異物汚染などを回避するために必要な無菌調剤室を設置している。業界大手を含めても、同社のような取組みの規模とシステムは珍しく「在宅部スタッフのほか、全41店舗の半数以上で、薬剤師が半径10km圏内を365日24時間のオンライン体制でケアしています」と徳永社長は胸を張る。



訪問調剤薬局支援ツール「ランシステム」



無菌調剤室での作業

同社の実績は医療機関にも認められ、最近では、本来自宅に戻れないような末期がん患者の終末期ケアまで在宅部の薬剤師が担当するほどである。また、平成24年10月には在宅医療と介護事業専門の㈱グロライフを設立して、調剤報酬の報告書や資料作成といった負担の大きい事務をiPadの入力で簡単に処理できるアプリケーション「ランシステム」を共同開発した。さらに、昨年5月には南種子島で太陽光発電事業を開始するなど、環境面からも広く社会貢献に取組んでいる。